国際秩序

グローバルサウスから見たミュンヘン安全保障会議

ルビオ演説に見られた米欧中心史観と進展するミドルパワー連携

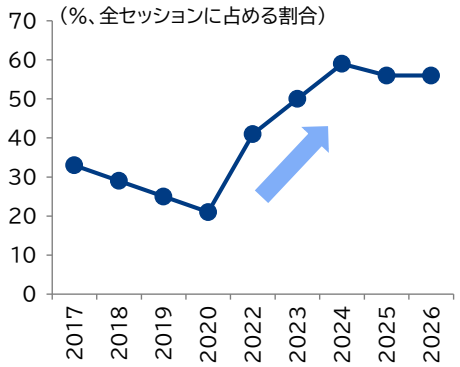
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 ルビオ米国務長官の演説とグローバルサウス諸国の反応

ルビオ氏の演説	米欧の新同盟は軍事協力や再工業化だけでなく、（中略）重要鉱物の西側供給網構築やグローバルサウス市場のシェア獲得にも焦点を当てるべきだ
	偉大な西洋帝国の衰退は共産主義革命と反植民地主義によって加速された
	西洋が支配する時代は終わったと多くの人は考えているが、衰退は運命ではなく選択である
	米欧間の古い友情を再活性化し、人類史上最も偉大な文明を刷新することを求める
	米欧が共に受け継いできたものが唯一無二であり、独自であり、かけがえのないものであるという認識が米欧同盟の基盤である
グローバルサウスの反応	【南アフリカ ラマポーザ大統領】 新たな形の植民地主義であり、アフリカ諸国は連帯して経済大国から資源を守る必要がある
	【インド サンジャヤ・バル氏 政策アナリスト】 反植民地主義の灯台として、インドはルビオ氏の演説を相応の軽蔑をもって非難すべきだ
	【トーゴ ファリダ・ナブレマ氏 人権活動家】 ルビオ氏が推進しているのは、西洋が文明において優れており、したがって支配しなければならないという考えであり、新たなベルリン会議を目撃しているようだ

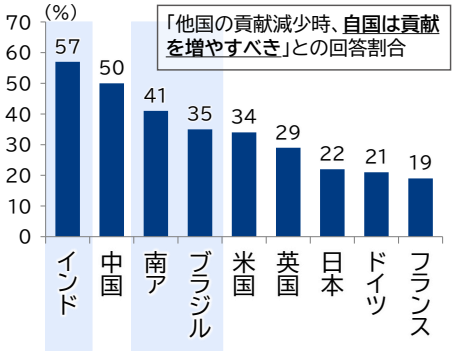
出所：米国国務省HP、ミュンヘン安全保障会議HP、各種報道を基に三菱総合研究所作成

2 グローバルサウス諸国の代表者が登壇するセッションの割合



注：「西側諸国・中国・ロシアを除く国の政府または地域国際機関の関係者」が登壇しているメインセッション数を集計。2021年はコロナ危機のため未開催。
出所：ミュンヘン安全保障会議HPを基に三菱総合研究所作成

3 国際課題への自国の貢献の在り方



注：G7およびBICS諸国の計11,099名に対して、2025年11月に実施された市民アンケート調査。
出所：ミュンヘン安全保障会議「Munich Security Report 2026」を基に三菱総合研究所作成

評価ポイント

ルビオ氏演説に米欧中心的との批判

- ミュンヘン安全保障会議におけるルビオ米国務長官の演説は、欧州側に負担共有を求めつつも、大西洋同盟の継続と再活性化を訴える内容であり、米欧間の過度な緊張を和らげる内容として一定の安心感を与えた。
- 一方で、演説では、西洋文明を「人類史上最も偉大な文明」とし、米欧の新たな同盟による重要鉱物の西側供給網構築や、グローバルサウス経済での市場シェア拡大を訴えるなど、米欧中心的な発言がなされた（図表1）。
- 無論、この演説は欧州や米国内世論に対するメッセージである。それでも、既存の米欧中心秩序に不満を抱く一部のグローバルサウス諸国からは、帝国主義的だとの批判が出ている。
- 例えば、南アのラマポーザ大統領は、「新しい形の植民地主義」と称し、アフリカ諸国に対して連帯して経済大国から資源を守る必要性を訴えた。

ミドルパワー連携に向けた取り組みが進展

- 米政権の真意にかかわらず、国際秩序の多極化は進んでいる。西側諸国のみで国際課題に対処できる時代ではない。ミュンヘン安全保障会議でも、グローバルサウスからの代表が登壇するセッションは増加している（図表2）。
- 欧州側の受け止めも慎重だ。ドイツのメルツ首相が「米国が主導した国際秩序はもはや存在しない」と発言したように、米国に対する不信感は根強い。
- 会議期間中には、日本・ブラジル・ドイツ・インドの4カ国が「安保理改革に関するG4外相夕食会」を開催するなど、ミドルパワー連携は着実に進みつつある。
- さらに、会議に先立ち公表されたレポートによれば、「他国が国際課題への貢献を減らすなら、自国は貢献を増やすべきだ」と回答した市民の割合は、インドや南アフリカなどグローバルサウスで高い（図表3）。
- 一方、日本や欧州では貢献拡大への意欲は相対的に弱い。多極化が進むなか、グローバルサウスと連携し、包摂的で持続可能な秩序の再構築に踏み出せるかどうかが、今後の国際政治の行方を左右する。

Copyright (C) Mitsubishi Research Institute, Inc.